

教会と私  
～恵まれる場所～

P 村岡光（むらおかひかり）

私にとって大切なコミュニティは教会です。私は幼いころから家族とともにプロテスタントの教会へ通っていました。大学生になってからは秋田市の教会に行っています。そのコミュニティがどうして私にとって大切なのかについては3つの理由があります。

一つ目は、喜びや悲しみをともに共有することができる場所からです。教会には子供からお年寄りまで幅広い年代の人々がいます。もちろん私と同じ大学生もいます。教会の人たちは、私が嬉しかったことを話すといっしょに喜んでくれます。また、悲しいことがあってそのことを話すと黙って話を聞いてくれて、ある人は私のために涙を流してくれたり、そのために祈ってくれたりします。だから、私にとって教会は元気と励ましを受けることができる場所です。

二つ目は、信じている神様をいっしょに礼拝できる場所だからです。特に私はみんなで賛美をすることが好きです。ある人は「賛美」と聞いて、たとえばパイプオルガンやとても静かな雰囲気想像するかもしれません。でも、私の教会ではもちろんオルガンもありますが、ドラムやエレキなどの楽器も使って賛美をしています。もちろん静かな賛美も歌いますが、元気な賛美（ゴスペルみたいな）も歌います。そして、私もときどきドラムで賛美のお手伝いをさせてもらっています。

三つ目は、私の大好きな人達がともに集まることができる場所だからです。皆さんも、好きな人といっしょにすることができることって嬉しいと感じると思います。私は教会の人たちが大好きです。あたたかく、優しく、いつも愛にあふれている人たちです。いっしょにいととても嬉しいし、安心します。私もそんな人になれたらいいなと思っています。教会は私にとって、とてもあたたかくて、安心できる場所です。

以上三つの理由から、教会は私にとって大切なコミュニティです。

## 2、取材散歩に行ってみて

〈一回目 11月7日〉

みんなでの教会へ行きました。教会の名前は、土崎グローリアチャペルです。当日は天気が悪く、雨が降っていましたが、タクシーと電車で教会へ行ってきました。ちなみに、教会は秋田駅から一駅の土崎駅から徒歩で3分というとても便のよいところにあります。建物も4階建てで屋上まであるので、駅からよく見えます。グループメンバーのなかでは、中国人の留学生賈さんが教会に行くのが初めてとのことでした。また、ルーマニアの留学生セバスティアンは自分の国で行ったことがあり、浩平くんはカトリックの保育園にいたので行ったことがあるとのことでした。教会では結構3人とも教会の大きさに驚いていました。1階の会堂やカフェスペース、2階の愛餐ホールや子供の部屋、3階の宿泊施設や倉庫、学びの部屋、図書室などを案内して回りました。4階は行きませんでした。(笑) 3人とも興味を持って見てくれていました。嬉しかったです。最後に礼拝堂でグループ写真を教会スタッフの方に撮っていただきました。帰りは電車時間まで、まだ余裕があったので、駅前にあるケーキ屋さんでおいしそうなケーキを選んでお茶にしました。私は賈さんと同じ、カボチャのモンブランを選びました。とてもおいしくて、またおしゃべりも楽しむことができました。男子2人はケーキ一つじゃ足りないと言って、それぞれシュークリームとようかんを買っていました。(笑) そして賈さんは友達にお土産でケーキを買っていました。帰りの電車のなかでは、隣に座った賈さんと世間話や中国について話して帰りました。

〈二回目 11月14日〉

二回目はどこへ行くのかちゃんと考えていなかったのので、最初少し教室に残ってみんなで話合いました。ゆっくり話せる&何かおいしいものを食べれる場所ということで、自転車でマクドナルドに行くことになりました。それぞれ食べたいものを注文して、席に着きました。それからいろいろな話をしました。賈さんがケータイで中国料理の写真をたくさん見せてくれました。中国のごはんは日本よりとても安くて量が多いそうです。それを見たセビが、「日本の料理は少なくて高い」と言っていました。(笑)とにかく、おいしいものを食べて、おしゃべりして最高に幸せな時間でした。その時に食べたチョコサンデーの味が忘れられません！

### 3、話し相手の紹介

次に私がインタビューをする人を紹介します。幼いころから教会にいっしょにいた同い年の幼馴染です。初めは彼女のお母さんだけがクリスチャンで、幼い彼女とその弟を連れて三人で教会に来ていたのですが、そのあとにお父さんもクリスチャンになり、今は毎週家族四人で教会に来ています。彼女は教会というコミュニティーのなかで、賛美チームでカホーンという打楽器やタンバリンを担当しており、賛美チームの一人です。また、教会を大切にしている、とくに教会の会堂やカフェスペースの掃除を積極的にしています。そんな彼女の姿から学ばされることがあります。

彼女との思い出は、やはり幼馴染なのでたくさんあります。私はとくに教会で彼女と二人で、お互いの日常での楽しかったことや、辛かったこと、また最近自分がはまっていること、などいろいろおしゃべりしたことが楽しかった思い出の一つとして心に残っています。そして最後にそれぞれがお互いのために祈りあって、励ましあうときがとても祝福されて私の好きな時間でした。それに、彼女の前では幼馴染ということもあり、ありのままの自分であることができるし、安心できます。

どうして彼女と話をしたいかという、彼女は教会というコミュニティーをどのように考えているのか興味を持ったからです。また、同い年で幼馴染であり、話しやすいこともポイントです。私と同じ考えもあるかもしれませんが、もしかしたら私とは違う考えをもってそのコミュニティーに参加しているのかもしれませんが。どんな答えが返ってくるのかとても楽しみです。

### 4、話し合い結果

事前にメールでインタビューに協力してくれるように頼んでいました。「へ～！面白そう！私でよければ全然いいよ！私でよければ(笑)」と心よく引き受けてくれました。スカイプでインタビューをしました。まず初めに、私がどうして教会を大切なコミュニティーだと思っているのかについて話しました。話している途中で「うんうん」とうなずいてくれたり、「それ！分かるー！」と反応してくれたりしたのでとても話しやすかったです。

そのあとに、友人は教会をどのような自分にとってどんな場所だと考えているのかと質問をしました。すると、「恵みをいっしょに分かち合うことができる場所」という答えが返ってきました。教会には神様を知っている人々が集まるから、そこでは互いに「こんなつらいことがあったけれど、祈った時にこんなすごいことが起きたんだよ～！」というように互いにその神様からの恵み、祝福を分かち合うことができると話していました。これは私の一つ目の理由と似ていました。

次に、教会は「自分の価値観が変えられる場所」だと話してくれました。教会の人たちの喜んで賛美をする姿、祈る姿、感謝する姿から、不完全なものはだめだというような世の中の基準からの価値観が変えられたそうです。次のようなことを話していました。「えっとね！世の中って、整形とか、高い化粧品を使ってみんな美しさを求めるでしょ？うすっぺらい美しさとか、年齢を重ねるとはがれ落ちてしまうもの。でも、教会のボランティアで岩手の山田町行ってお米を配っ

たとき、そのお米を受け取った人たちが喜んでくれたんだけど、その時見せてくれた笑顔が本当に美しかったの。内面から輝くような笑顔だった。だから、私はその感謝する心から、本当の美しさって出ているんじゃないかなあって思ったんだ。でさ、賛美する人の姿や、祈って神様に感謝する人の姿ってすごくきれいだなあって思っていて、見た目的な美しさより、その神様から来る、神様が与えてくださる感謝の心が人間にとって一番うつくしいんだな、って思って、感謝することを大切にするようになりました。」これには私も共感しました。私は小学生のときによく人と自分を比べたり、時には比べられたりしてとても傷ついていたことがあったけれど、教会で「君は神様によってつくられた、かけがえのない存在だよ」って教えられたときに自分のそれまでの価値観が変えられたという経験をしました。

最後に、友人が教会でしている奉仕に対する思いやこれからどうしていきたいのかについて聞いてみました。賛美や掃除の奉仕について、神様がその環境を与えてくれたと話していました。また、賛美でカホーンやタンバリンをしているときに、教会のみんなの賛美をしている顔を見ることが好きで、「神様私を使ってください！って感じ！」と嬉しそうに言っていました。また、サーバント・リーダーという人に使えるリーダーになりたいとも話してくれました。彼女の喜んで奉仕をする姿をもう一度思い出して、彼女ならそんな人になれると思いました。

最初から最後まで楽しそうに話してくれました。特に、「価値観が変えられる場所」ということを思い出さされて、教会のすごさを再確認しました。また、彼女の教会での奉仕に対する思い、これからのビジョンからよい刺激を受けました。教会にはいろんな奉仕があります。賛美、掃除、食事、受付など様々です。私が今行っている教会では、一つ上の先輩がメッセージの通訳の奉仕をしています。一見華やかなものから、そうではない小さなことまで奉仕はいろいろあるけれど、それぞれが心から喜んでしている姿は本当に愛にあふれ、輝いています。私も教会で賛美の時に時々ドラムを叩かせてもらっていますが、これからも喜んでこの奉仕をしていきたいです。

今回のグループメンバーの選んだコミュニティーも様々なものがありました。そして、その理由も興味深いものでした。私は今回の授業を通して、コミュニティーはただの人の集まりではなく、そこにいて自分の存在を認識できるものではないかと考えました。たとえば、メンバーが挙げていた家族、大学の学部、高校のクラスにしても、彼らはそこで自分の存在を認識し、そしてそこにいて他の人々も自分の存在を認識してくれていることを感じ、そしてさらに、そこにはよい思い出などがあり、自分にとってそれぞれ大切なコミュニティーを選んだのではないかと考えました。自分の存在が認識できない、認識されないようなコミュニティーは自分が所属しているとは思えないでしょう。そして、コミュニケーションについては、授業の最初にグループメンバーで遊びに行ったことや、授業中の会話を通して考えました。それらから、コミュニケーションとは互いに相手に関心を持ち、意志疎通をしようとするのではないかと考えました。少し難しいものなので、これからも自分の経験することを通して、日々考えていきたいです。

今回でこの授業は2回目だったが、1回目とはまた少し異なるテーマで、普段じっくり考えることが少ない自分の大切なコミュニティーについて長い時間をかけて考えることができました。そのなかで、そのコミュニティーが自分にとってどれほど大切なものかを再確認し、また友人とのインタビューを通しては、新たな発見があり、よいインタビューの時となったと思います。もちろん、この教会以外にも私の所属しているコミュニティーはあります。それらについても、時にじっくりと考えてみることで新たな発見があるのではないかと考えました。グループメンバーのレポートからも、さまざまな考え方に触れることができ、他の人と自分の考えたことをシェアする面白さもすることができました。もし、また異なるテーマで授業をする予定があれば、ぜひ参加してみたいです。